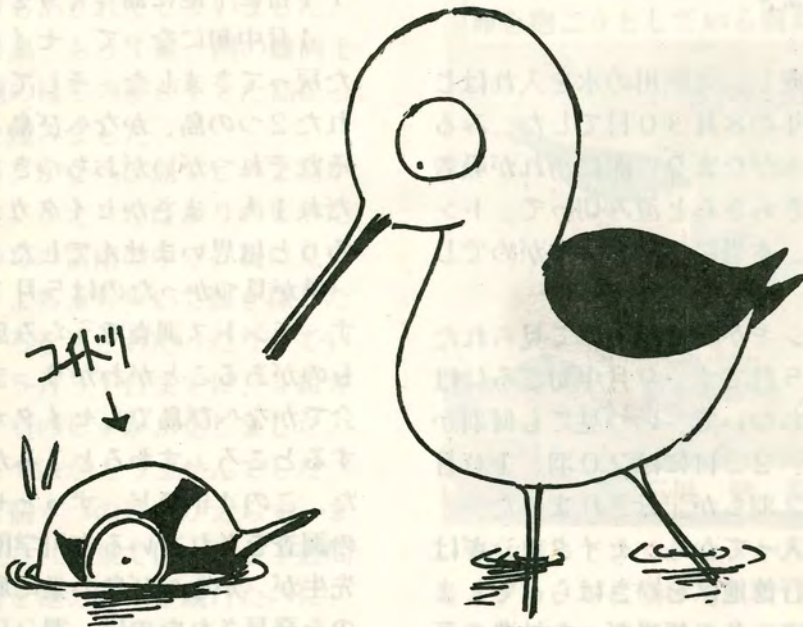


すずがも通信51

行徳野鳥観察舎友の会会報 1988年8月1日発行

特集 セイタカシギ



市川 拓 画



ツユクサ

大関 みき江 画

セイタカシギ特集



前号でお知らせしたように、「よみがえれ新浜—水質浄化と水鳥の誘致」というテーマで実験中の新しい池で、セイタカシギが巣をつくり、ヒナを育ててくれました。今号ではこのセイタカシギの特集をいたします。

新池が完成し、丸浜川の水を入れはじめたのは今年の8月30日でした。みるみるうちに水がたまり、泥に汚れが吸着された水はきらきらと澄み切って、トンボが群れて、本当にみごとながめでした。

セイタカシギが新池で初めて見られたのは、9月5日です。9月中旬ごろにはすっかりおちついて、いつ見ても何羽か入っており、22日には20羽、10月8日には22羽もが記録されました。

11月に入ってから、セイタカシギは姿を消し、行徳地区をひきはらってしまったようです。冬の餌場だった妙典の蓮田がなくなってしまったためでしょう。冬の間、セイタカシギばかりかカモや他の鳥まで姿を消してしまい、新池はさみしいかぎりでした。



巣と卵

1月から2月にかけては揚水用のパイプが外れてばかりいたのと、丸浜川の水が少なかったために、上池、下池があいついで干上がりかけてしまいました。でもそれをよい機会にして、2月10日と11日に下池に島づくりをしました。

4月中旬になって、セイタカシギがまた戻ってきました。そして、下池に作られた2つの島、かなへび島とうらみ島にそれぞれつがいがおちつきしました。でもだれ1人、まさかセイタカシギが巣を作ろうとは思いませんでした。

巣が見つかったのは5月1日のことです。ベントス調査でうらみ島に巣らしいものがあることがわかり、また園内観察会でかなへび島でもセイタカシギが交尾するところ、すわるところが見られました。この4年ほど、ずっとセイタカシギの調査をされている市川学園の北川珠樹先生が、かなへび島の巣に卵が3個あるのを発見されたのは、翌2日のことでした。

巣はこの後も次々にふえ、やがて8つの巣がそろいました。卵は毎日1つずつ産まれ、おきまりは4個です。どうも2個そろそろもう暖めはじめるようです。巣は地面に少しくぼみを作り、手近にある枯れ草などをざっと丸く集めただけの本当に雑なものです。島をはじめ、みぞを掘った時に積みあげた土の上など、いかにもいい加減なところにつくっていました。卵はうす茶にこげ茶色のむらむらもようがあり、ちゃぼの卵よりこころもち小さいもので、よくよく注意しないと泥の色にまぎれて目につきません。

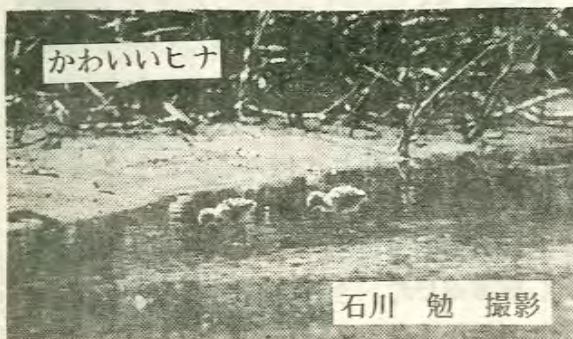
8つの巣のうちの最後のものは、何と

雌どうしがつがいを作っていて、卵が8つありました。コロニー性のカモメなどでは珍しくないそうです。ただし、この巣は他の2巣とともに、5月16～18日にかけて卵をとられてしまいました。

卵をとられた3巣のつがいは、すぐに別の場所に巣を作り、卵を産んだようです。上池と下池の間の高い土手の上で、せっせと巣材を運んでいるのを見た時には、驚くよりもあきれてしまいました。この土手で2巣、もう1組、例の雌同士のパアは上池のはしの桜が生えた島に、今度は7卵を産みました。

5月29日、かなへび島でヒナ2羽がかえりました。かえったばかりのヒナたちは、おりからの雷雨の中で、親に見守られながら、よちよち歩いて餌を探したり、深いところを泳ぎわたったりしていたそうです。5月31日までに、4組各2羽、合計8羽のヒナがふ化しました。

この後、ヒナはかえりませんでした。1巣につき2個ずつの卵はかえらず、また最初に発見された巣では、親が1週間以上も予定日を越えて抱き続けたのに、とうとうだめでした。卵をなくしてやりなおした3つの巣では、くやしいことにふ化まであと2、3日というところで、また卵が消えました。卵どろぼうの足跡は見当たらず、カラスは全然よりつかなかったもので、一番あやしいのはヘビだろうということになりました。



かわいいヒナ

石川 勉 撮影

ヒナが最初に飛んだのは、6月27日のことです。ほんの5mほどだったそうですが、ぐんぐん飛ぶのがうまくなって6月29日は人に驚いて200mも離れた下北岬に2羽のヒナが飛んで行ってしまいました。この時も翌日には新池に戻って来ていましたが、だいぶ自信がついたのか、あちこちに親子が飛んで行くようになったようです。

卵を抱こうとしている親鳥



石川 勉 撮影

春に戻ってきってから3か月、ともかくセイタカシギに明けくれた日々でした。特に北川先生は週に4～7日のペースで通いつめて観察を続けられました。ここに挙げた記録もほとんどが北川先生にお聞きしたものです。深く感謝しております。

それにしても、ヒナがかえる直前あたりからヒナが小さいうちの親の警戒はものすごく、特にふ化の日は、人の姿を見ようものならかなり遠くから親鳥がけたたましい声を上げて飛び立ち、池から離れたところまで追いかけてくるほどでした。池に入る鳥は猛然と追い払われ、キジのおすが40分あまりも攻撃されるところや、小さなイソシギまで追われるところ、また気の毒なオオバンが飛び上がりそこねて土手に激突、よたよた逃げる

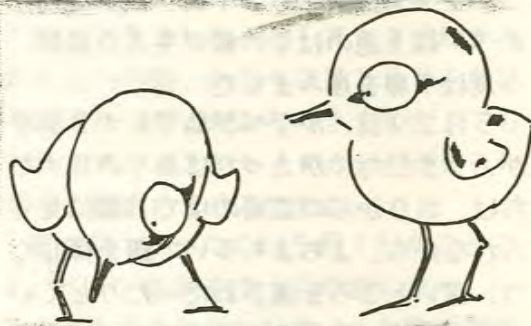
ところなども見られたそうです。用事があって池に入ったり、のぞいたりするたびに、まるで人ごろし(鳥ごろし)扱いで大さわぎされるのには参りました。

セイタカシギというのは奇妙な鳥だと思います。沼沢地の中の小さな島に巣を作り、26日ほどの抱卵期間だけ水につからず卵を守ることができれば、あとは汚れた水にすむ赤虫や何かを漁って何とかやっていけるのでしょう。雨期や乾期とも関係した生態かも知れません。コロニーを作るのも、集団で防衛すれば外



市川 拓 画

敵を撃退できるかも知れないという利点と、一度味をしめられたら、あっさり全滅するかも知れない危険とがうらはらになっています。となりの親鳥にヒナが攻撃され、一度などは首ったまをくわえてふりまわされたという観察もあります。今回の日本初のコロニー繁殖は、一応成功はしたわけですが、この先はどうなるか、見守るだけではなく、いろいろと手をかけて行く必要もあるでしょう。



市川 拓 画

私がみつけたのだ!

白石 隆徳
(中学3年)

セイタカシギが巣を作った。それを発見したのはこの私である。

その日は五月である。その月の底生動物調査の日、新池の下池での採泥も終わり、ふとうらみ島をのぞいてみるとなんと巣らしきものがあつた。この巣は最初はなんの巣だかはわからなかった。それからしばらくたち巣にセイタカシギが卵を産んでいるという話をきいた。そのときの巣はなんとセイタカシギの巣かと思ううれしかった。

うらみ島は僕らがつくった島だ。なぜうらみ島の名がついたかというと、そう新池観察会と池のアシかりと島づくりをやった日のこと。そのとき僕は3人で島をつくっていた。そのとき、僕らが重い泥をつみあげていたとき、会長の東さ

んが観察会が終わったからてつだいにくるといっていたのにこない!なんとその理由がドラクエ3のゲームをやるため!?に帰ったというのだ。それを聞いて文句を言いながら作りました。そのときに約束をやぶったことをうらみ、うらみ島という名がついたのです。このうらみ島の気持ちがこのセイタカシギを引き寄せたものだとは僕は信じている。

巣がダメにならないかとか、カラスが卵を食べてしまわないかとか不安な気持ちでいた。巣をみつけてからだいぶたちヒナがかえったことをきいてやったという気持ちでした。結局何巣かはダメになったけど、かえったヒナはみごとにとおようになった。

日本初のコロニーでセイタカシギがはんしょくした。これは新聞などにものつた。これでもっとほかの鳥もこのようにはんしょくしてほしいと思っている。

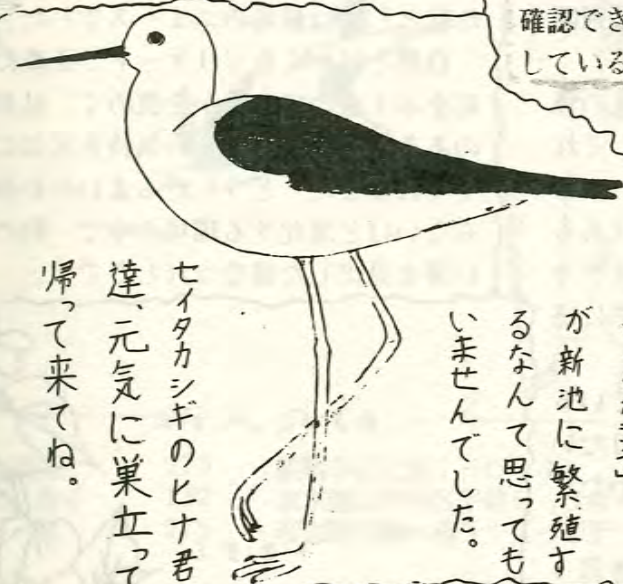
混



鈴木 博之
(高校3年)

新池と言われて思い浮かべるのが、夏は草刈り、冬は外れてしまうパイプ、そして春は池へ放す魚やザリガニを採取しに行ったことなどです。

今後は、この池の生物をもっと増やして、鳥や多くの生き物が見られる、そんな池にしたいと思います。



小六 金田 江平

セイタカシギのヒナ君
達、元気に巣立って
帰って来てね。

セイタカシギについて



若本 康平
(高校3年)

4か月ぶりに来た観察舎、内がガヤガヤしていた。話を聞くと新池に行くようなので、一緒についていった。上空をセイタカシギが警戒して飛びまわって、ぼくたちの方をにらんでいるようで、気がひける思いがした。池の中にはひなが2~3羽歩いているのが、双眼鏡の中から確認できた。スズガモ通信を読んで繁殖していることは知っていたが、まさかこんなに順調に育っているとは思ってもいなかった。という

のは、ここ何年か他の鳥(サギ、オオバン、ヨシゴイetc)の繁殖が減っている中で、全国的にも珍しいセイタカシギがこんな街中で繁殖するとは思ってなかったからだ。去年の8月に池が完成した時、殺風景な水面に

こんなに珍しい鳥
セイタカシギ
が新池に繁殖する
なんて思っても
いませんでした。

伊藤 啓之
(中学2年)

セイタカシギの特徴は、何といっても「ピンク色の長い足」。はじめて見た時には気色の悪い鳥だなと思いました。しかし先生から聞くと、「現在、日本には50羽ぐらいしかいない。」とおっしゃいました。これには驚きました。あんな気持ちの悪い鳥がと思いました。しかし今見るとかわいいです。

ひとこと

坂口 敦
(高校3年)

実験は大成功で、セイタカシギは繁殖するし、おまけに、オカヨシガモも繁殖して、言うこと無し!!

ひとこと

川上 秀明
(高校3年)

カナヘビ島の作者として一言。バケツが見えてきてしまってますみません。今度水がへったらなおしますので、それまでゆるしてください。

池とセイタカシギ



三浦 典子
(高校2年)

池というと、去年の夏のバイツ接続工事中、勉学の暇ゆえにふらふらと遊びに来ては、お手伝いと称して作業の能率を落としたことがあった。それに、怠惰な私はベントス調査にも近頃は出ず、観察会に行くこともなく、こししばらく池とは多少疎遠になっている。(ここ2週間は何か結構行っているのだが……)

そしてセイタカシギといえば、私の憧れであり、初めて行った(そして、それ以来行っていない)新浜観察会で、プロミナーの中に文字通り踊っている(あるいはじゃれあっている)2羽のセイタカシギを初めて見た時は、その美しさに感動した。

余談になるが、先日学友と談じているとき、「畜生道に入ったら何になりたいか」という話題になった。友が「わたしはきつね」「〇〇さんはへび」「……私は友人に恵まれない(ぐすん)」等言って「ところでみうらは？」と聞かれ、私は「……セイタカシギ」と答えた。(友の視線に冷たいものを感じたような気がするが、多分私の気のせいであろう。)

とにかく、私のように何もせず……何をしたところで、それはお手伝いではなく単なる足手まといなのだから、何もしないのがお手伝い、と聞き直らずにはいられぬほど何もしていない私が何を言っても、それはおこがましいだけであろうしかし、頭が緑でボディが茶色のカモの縫いぐるみを大小セットにして「かわいいカルガモの縫いぐるみ！」と宣伝して売っている昨今に於ても、セイタカシギの繁殖成功は大変喜ばしいことであると思う。

一粒の青い芽



土橋 茂子

「すがも通信50」拝見しました。セイタカシギのコロニーのこと、ほんとに驚きました。最近こんなにドキドキしながら字をよんだ事はありません。1昨年江戸川でセイタカシギをたくさん見せていただいてうれしく入会させていただいた私としては最高のニュースでした。

自然とはかくもデリケートで正直に反応を示すものであるかを改めて、私自身のあきらめに似た淋しい気持ちを元気にしてくれました。どうしたらよいのか分からないほど悪化する環境の中で一粒の青い芽を見出した様なうれしさです。

ドクダミ

大関 みき江 画

だれでもできる プリンせっけんの つくりかた

………生協まつり 資料より

用意するもの

500cc位の広口びん(コーヒーの空びんなど、きっちりふたができるもの)

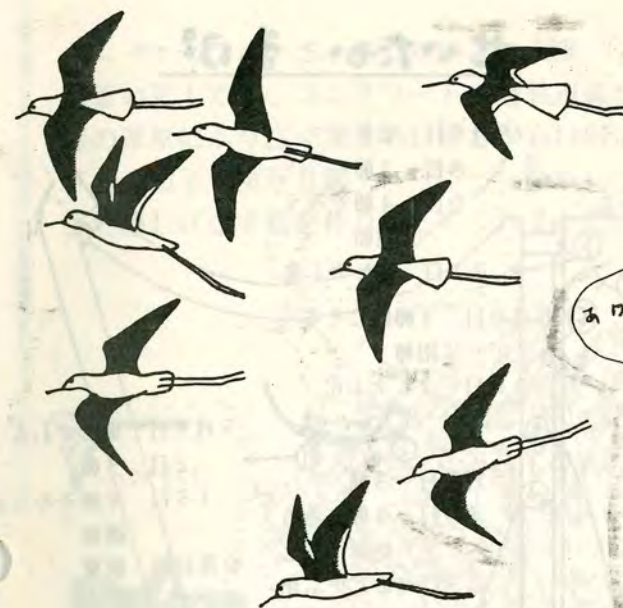
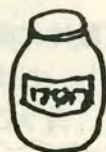
使い古しの食用油: 90cc

苛性ソーダ: 15g

ごはん: 10g

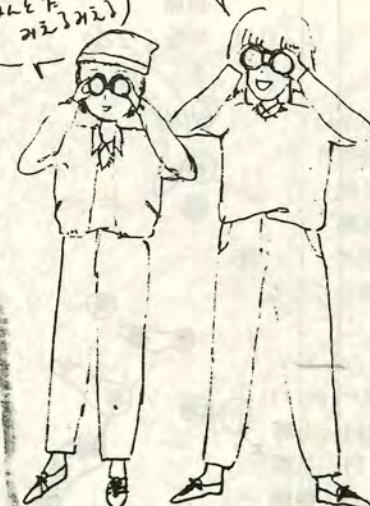
菜ばし

お湯



うふふふ
るげーせえ
せえになしたあ、

あはれと
みえみえ



新入会員

住所変更

作り方

1. びんに廃油、かせいソーダ、ごはんを入れる
2. 次に80℃位のお湯、90ccをびんに入れる。この時、かせいソーダの濃度が高く危険なので、絶対に素手でさわったり、ハネをかぶらないように要注意!
3. 菜ばしで静かに混ぜながら、お湯の温度が下がったら、またお湯90ccを加え、よく混ぜる。計4回、360ccのお湯を加えて、仕込み終了。
4. 最初は液が分離するので、毎日1回、5分位かき混ぜる。
5. 固まってきたら、2、3日に1回の割合でかき混ぜる。
6. 日なたに出して、夏場は2週間、冬場は1ヶ月位でできあがり。
☆ごみが入らないようにふたをしておくこと。



5月11日 巣作り
14日 2卵
(16日 4卵そろふ)
抱卵
20日 卵なくなる

5月9日	2卵
11日	4卵そろそろ抱卵
20日	卵なくなる

5月11日 巢作り
16日 4卵
18日 8卵
抱卵
23日 卵なく

(やりのおし)
(薩どうしのつか)
5月28日
6月 1日
18日

・(やりなおし)

5月22日	巢作り
24日	2卵
26日	4卵そ
	抱卵
6月15日	卵なく

:(やりなおし):

5月24日 巣作り
25日 1卵
(28日 4卵そろふ)
抱卵
6月15日 卵なくなる

5月5日 巣作り
8日 3卵
9日 4卵そろそろ抱卵
31日 2ヒナふ化

9日 4卵既にそろそろ
抱卵
30日 2ヒナふ化

5月1日	巢にすわる
2日	3卵
(3日)	4卵そろへ
	抱卵
6月6日	放棄

下池

5月1日	葉あり
7日	2卵
9日	4卵そろそろ抱卵
30日	2ヒナふ化

うらみ島 (4)

黒茶色

サンゴ色

6

7

セイタカシギが巣を作った新しい池 (上池)

番号12渠のあた場所

暑い夏！でも、コンクリートの舗装道路からの容赦ない照り返しとは違って、深い緑の葦原にふり注ぐ真夏の日差しからはどことなくつかしい匂いがしませんか？むぎわら帽子、虫とり網……。枝払いで丸坊主になってしまったニセアカシアもまた涼しげな木陰を作りだしてくれました。



東 馨子 画

鳥の国から

蓮尾 純子

むしむしと暑くて、ようやくごよみどおりの季節が戻ってきたようです。寒かったり暑かったり、わけのわからない時期が続いたので、夏らしい日、梅雨らしい日が何となくうれしいのです。そろそろちゃんとした雷雨を期待しているところ。たいひに生えたキノコがひからびてしまいました。

セイタカシギの生長、オカヨシガモのヒナ発見で、繁殖期の大役ははたし終えたような気がします。でも、ああ、何たること。今年はまだカルガモも、キジもカイツブリも、ヒナを見ていません。ヨシゴイなど親すらいません。コアジサシの姿をほとんど見なくなりました。珍しい水鳥の繁殖はうれしいことですが、ごくごくありふれていた鳥たちが次々に見られなくなることのおそろしさ。

中でも心配なのはコアジサシ。6月の初めころまで、保護区の干潟で60羽ほどの群れがいつも見られ、さかんに求愛行動（プレゼントの小魚を雌に渡す）を見せていました。ふつうなら、とくに卵を生みはじめる時期です。浦安の埋立地にハシボソミズナギドリを放しに行った時、道ぎわの土盛りをしたところに巣がいくつかあるのを見つけました。でもわだち跡、人や犬の足跡がいっぱいで、とても大きなコロニーにはなりそうもありませんでした。間もなくコアジサシは姿を消し、あの涼しげなダイビングもほとんど見かけなくなりました。江戸川放水路でも見られないそうです。この付近での繁殖をあきらめて、どこかへ旅立ってしまったのではないのでしょうか。



51-10

オカヨシガモやセイタカシギに加えて見る機会がふえたのはイワツバメ。原木のコロニーでの数がずいぶんふえたのでこちらまで羽をのぼしているのでしょう。今年もどこか近くにツバメのねぐらがあるようで、たそがれ時にツバメの群れが鳴きながら飛びすぎて行きます。イワツバメも一緒に寝ているのかな。

今年の大豊作は、ムカデとヤスデとネコ。見たところ20cm近いムカデがもう4回以上も室内で見られています。いきなりふろおけのふちに特大のが出現して、ぎゃあぎゃあさわいではだかで飛び出してしまったのに、わが家の男どもはまったく知らんぷり。そうこうしているうちにムカデは自分でお湯に落ちておぼれてしまいました。おそろおそろ葉ばしでつまんで助け上げたものの、人工呼吸もできないし、触角を動かすだけの「植物ムカデ」の状態で何日か生きのびたようです。生きている時は20cmに見えるムカデが、死ぬと15cmそこそこに縮むのはどうしてでしょう。

ヤスデの豊作は全国的らしく、ラジオか何かでも聞きました。こちらは食いつかないだけ気が楽です。勝手口の外燈の横にすばらしく大きなオニグモの巣があって、毎晩きれいに張りかえるので、いながらにして昆虫の灯火採集を見ているようです。でも、かかるのはほとんどユスリカばかり。

最悪の豊作はネコで、黒白ぶちののらネコ一家4(?)頭がはばをきかせているばかりか、どうもどこかで出産したもよう。おまけに捨て猫2ひきが売れ残り、ネコ好きな私にとっては、まさにまがまがしい状況です。わが家の黒猫ススム女史が今年はまだスズメも何もとってこないことだけが救いです。



はあと

東 良一

日差しがすっかり強くなりました。夕暮れ時、ウミネコの声などを聞くと、また夏がきたのかと実感します。

今年の5月6月の繁殖期は実に長いものに感じられました。5月初めにセイタカシギの巣がみつかった以来、卵はちゃんとかえるだろうか、ヒナは無事巣立つだろうかと気をもみどうしてした。雨が降れば、水位が上がって巣や卵が水没しないかと心配し、卵がなくなつたと聞けば、原因はカラスかヘビか、私達人間に何かできることはないのかと頭を悩ませたものでした。

観察会の時も繁殖中は鳥を脅かさないよう、立ち止まってゆっくり観察することなどはご遠慮願ったのですが、いろいろとお心使いいただきありがとうございました。おかげさまで、8個の卵がふ化し、8羽のヒナが無事巣立ちました。

オカヨシガモの繁殖といううれしいおまけまでついたのですが、ホッとひと息ついてばかりもいられません。家庭排水



もっと水鳥を！ 新池改良工事

8月6日(土)・14日(日)・15日(月)・16日(火)・21日(日)・28日(日)

セイタカシギが繁殖し、実験は大成功と言いたいところなのですが、葦を刈るなどやることはたくさんあります。お手伝いいただける方大歓迎です。ご都合のよい時間に参加していただければけっこうです。東 [redacted] までご連絡ください。帽子、タオル、着替えなどご用意下さい。

51-11

を使って湿地を造り、水鳥を呼び戻すという実験は確かに今のところは成功しています。しかし、人間の手で自然を回復することが必ずしも不可能ではないということはわかったものの、昔の自然を取り戻すにはまだまだ程遠いものです。ましてや、池を造ってまだほんの1年足らず。この小さな池でさえどう管理していったらいいか、問題はまだ山積みです。たとえば、植生をどうコントロールしたらよいのかも大きな問題です。とりあえず、水鳥の繁殖が終わる頃、夏休みを利用して葦を刈る計画です。7月30日の丸浜川祭りの行事として、説明会を予定していますが、浄化のしくみなどについても何かご提案がありましたらどんどんお寄せ下さい。

セイタカシギのヒナはすっかり大きくなり、親に連れられて保護区上空を飛び回っています。自立する日も近いでしょう。このヒナ達が来年も安心して帰ってこられるよう、またヨシゴイやヒクイナなど他の水鳥達がもっと繁殖できるようにできるだけのことをしていきたいと考えています。興味がおありの方、是非ご参加下さい。

水車ニュース

オカヨシガモの繁殖確認

今、丸浜川にはミジンコがどっさりいます。本当にどっさりいて、岸のそばがミジンコの大群でうす赤く見えることもあるほどです。7月7日、ミジンコを見ようとして観察舎餌場におりと、水面近くに1cmほどの小さなカダヤシ(メダカによく似た帰化魚)がいくつも泳いでいました。見とれていたら、ふいに2mと離れていない水面に大きなマスカットが全身を見せて、こちらに向かって泳いできたのです。小さな黒い目には特に警戒の色はありませんでしたが、1mほどに近づいたところで、何気ない様子で潜水し、それっきり姿を消しました。水面にはアメンボがいくつか浮き、鮮やかな青色を光らせてイトトンボが飛んでいました。このところ水位が割合低いためか、水がまっ黒になることもなく、なかなかよい感じです。何とんでも、底生動物調査で、6・7月と続けて全測点で生物が見つかっただけのことはあります。

新しい池のセイタカシギは、ヒナ8羽が無事に飛べるようになりました。結局8つがいと巣を作ったのに、ふ化にこぎつけたのは4つがい、それも4個の卵のうちそれぞれ2つがかえっただけでしたが、ヒナの事故がなかったのは何よりのことです。そろそろ広い世界へと親子が飛び立つことでしょう。

セイタカシギのコロニー繁殖、シラスウナギのそ上、と2度も続いたビッグ・ニュースのしめくくり(たぶん)は、何と本当にオカヨシガモのヒナでした。オカヨシガモは北海道では普通に繁殖しているカモですが、本州での繁殖例は昨年

幕張埋立地で観察されたのが初めて、今回は2例目になります。つがいが残っていたばかりか、6月に北池で11羽ものオカヨシガモが見られたりしたので、ずっと注意していました。6月26日、池にフナの子などを放流に行った時にカモのヒナが見られたというので、何日かかよって探したところ、オカヨシガモの雌に連れられた中ヒナ6羽を確認することができました。カルガモのヒナと違って眉線はほぼ1筋ですし、顔の色も少し暗い感じ。くちばしの先は黄色ではなく、ヘリが灰色っぽい色。またカルガモのヒナの腰のあたりにある淡色の斑は、もっと前に位置し、まっ白でした。

水鳥誘致という点では予想を上回るよい成績を上げた新しい池。でも、いつ見ても水は濁っていて、とても水遊びをするような状態ではありません。バックテストで見る限り、リン酸やアンモニアの減少は見事なものの、COD(化学的酸素要求量:要するに有機物の汚れのようなものです)は20~30ppmとあまり減ってくれません。これが5以下になると、どうやら底まで見えるきれいな池になるのですが、まあ、生物層がもっと豊かになれば、もう少し成績がよくなると期待することにしましょう。何しろ丸浜川だって、どうもよくなってきたような感じなのですから。

底生動物調査は毎月第1日曜、慢性的な手不足です。新池の改善作業は8月の休み中。のぞきにきて、泥沼に足を引っこんでくれる方、いらっしやいませんか!



マスカット

クリーン・丸浜川まつりのご案内

むしあつい日が続きますが、いかがおすごでしょうか。

どぶ川の水をひいて作った池で育ったセイタカシギのヒナも、おかげさまで無事に飛べるようになりました。8つがいと同時に繁殖という日本初のコロニーは、4つがい、8羽のヒナふ化という結果でしたが、ふ化したヒナが8羽とも成長したことを、みなで喜んでおります。これに続き、本州ではまだ2例目というオカヨシガモのヒナも発見され、水鳥の誘致にどぶ川の水が十二分に役立ったと言ってもよいようです。

さて、第2回目の「クリーン・丸浜川まつり」を実施の予定です。ご連絡させていただきます。今年は新しい池の見学や、これまでの調査結果の説明をあわせた見学会、丸浜川のゴミひろい大会、バーベキューなどを7月30日(土)に、また手作りせっけんの講習会を31日(日)に予定しております。30日の夜は浦安の花火大会もま近で見ることができます。

見学会やゴミ拾いに汗を流したあとのバーベキューの味や、夜風の心地よさは格別です。どうぞ、お誘い合わせの上、お出かけください。



行徳野鳥観察舎友の会 会長 東 良一

事務局



5/3(毎日)
288
生活排水に含まれる豊富な有機物を逆利用、水鳥の生息に役立てようという実験を進めていた千葉県市川市新浜の人工池(約

四五〇〇平方メートル)で二日、水鳥のセイタカシギが産卵しているのが確認された。
この池は昨年、地元「行徳野鳥観察舎友の会」がトヨタ財団からの助成金を基につくった。川から引いた水に酵素を入れ、水中のリンやチッソをバクテリアの栄養分にさせ、鳥を呼び寄せようというもの。
昨年九月ごろからセイタカシギ約二十羽がすみつき、最近になって仲間が増え、いっしょに「いっしょ」が産卵に成功、東良一会長(三十八歳)は人工池での珍しい産卵に「実験は大成功」と大喜び。





クリーン・丸浜川 第2回丸浜川まつり

7月30日(土)・31日(日)

集合・解散：行徳野鳥観察舎

主催：行徳野鳥観察舎友の会

協賛：市川市農水産課・千葉県自然保護課・福栄かもめ自治会

7月30日(土)

第1部 午前10時～午後4時半 参加費無料。どなたでも、いつからでも参加・帰宅自由です。

1、水質浄化実験現地説明会 午前10時～12時

ビデオを見ながら実験の仕組み、経過などを説明後、実際に水車や新池に足を運び実験の現場をごらんいただきます。水をきれいにするために私達にできることは何か、考えてみましょう。

2、ゴミ拾いとすいか割り 午後2時～午後4時半

観察舎前から塩浜橋方面と福栄方面、2手に分かれてゴミを拾います。去年もゴミ袋にいっぱいゴミが集まりました。暑いので帽子、タオルをご持参下さい。ゴミ拾いが終わり後片付けがすんだら、芝生で楽しいすいか割りです！

第2部 バーベキュー大会(会費制・予約制) 午後5時～午後8時

会費：中学生以上1000円、こども 500円 食器(皿、コップ、はし)持参

定員：50名

申込：東 []、鈴木 []

汗を流した後は、芝生でバーベキューをしながら夏の夜を楽しみましょう。7時45分から浦安の花火も見物できます。必ず電話でお申込下さい。

7月31日(日)

せっけんづくり 午前10時半～12時

持物：広口の空きびん(蜂蜜やコーヒーのびんなど)、あれば使い古しの食用油
タオル、ごはん1口分、菜ばし

廃油を使ってせっけんをつくります。難しくはありませんし、できあがったせっけんを使ってみれば、汚れがよく落ちることにびっくりすることうけあいです。せっけんのよさをきっと見直されることでしょう。

行徳野鳥観察舎友の会
行徳野鳥観察舎

行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜観察会(毎月第2日曜日) 8月14日、9月11日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：行徳野鳥観察舎 午後3時頃

担当：東 良一 [] 共催：日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会

持物：昼食、飲み物、バス代(大人290円、子供150円)、帽子

ちまたはうだるようなあつ～い夏の真っ最中ですが、水鳥達の世界ではもう秋の渡りが始まっています。江戸川で渡り途中のシギやチドリを観察。昼食後、バスで保護区へ向かいます。新池で繁殖したセイタカシギやオカヨシガモの若鳥に会えるでしょうか。暑いので帽子をお忘れなく。小雨決行。

☆定例園内観察会(毎月第1・3日曜日) 8月7日・21日、9月4日・18日

集合：行徳野鳥観察舎前 8月；午後3時 9月；午後1時半

解散： " 8月；午後5時頃 9月；午後3時半頃

担当：観察舎 蓮尾、協賛 友の会

夏休みの自由研究に自然観察はいかがですか？保護区の中を鳥や虫、草花などを観察しながらひとまわります。ゆりヶ浜ではトビハゼやカニも見られます。夏場はいつもと集合時間が違いますのでお間違いなく。帽子も忘れずに！雨天中止。

☆夕暮れ観察会

8月28日(日)、9月25日(日)

集合：行徳野鳥観察舎 午後5時

解散： " 午後7時頃

担当：観察舎 蓮尾

暑かった夏の日の夕暮れ時、季節の移ろいをかみしめながら保護区の中をひとまわりしましょう。ツバメやサギ達がネグラに入りあたりがひっそりと静まるころ、代わって虫達が音楽会を始めます。虫刺され予防のため、なるべく長袖、長ズボンでおいで下さい。雨天中止。

☆丸浜バードリバーを調べよう(毎月第1日曜日) 8月7日、9月4日

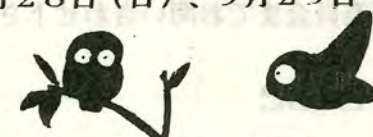
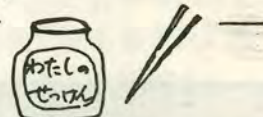
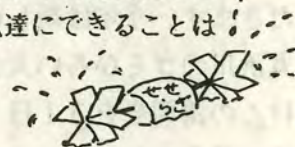
集合：行徳野鳥観察舎 午前10時

解散： " 午後3時頃

担当：東 良一 []

持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋

丸浜川と新池の底泥を採取し、中にいる生物を探します。ボートで丸浜川にこぎだしたり、胸まであるゴム長をはいて新池に入ったり、午後からは1Fの視聴覚室で泥の中から生物を探す作業もしています。参加も見学も自由。夏休みの自由研究をかねて、参加してみませんか。小雨決行。



☆水鳥カウント

9月15日(木・祝)

申込：東 [REDACTED]

保護区、塩浜海岸、原木などで水鳥の数を数えます。スズメやツバメなどいつも見逃してしまいがちな鳥達ともじっくりおつきあい。身近な環境を見直すのにもよい機会かもしれません。鳥をよく知っていなければならないということはありません。お気軽にご参加下さい。

☆クリーン・丸浜川、第2回丸浜川祭り 7月30日(土)・31日(日)

7月30日：水質浄化実験現地説明会、ゴミ拾いとすいか割り、
バーベキュー大会(会費制・予約制)

31日：せっけん作り、新池観察会

集合・解散：野鳥観察舎

第2回丸浜川祭りを今年は2日に分けて行います。詳しくは別刷りのちらしをごらん下さい。



☆ふなばし浦三番瀬まつり

8月28日(日)

主催・問い合わせ・予約受付：ふなばし浦三番瀬まつり実行委員会

毎年、船橋漁港で開かれる三番瀬まつりが今年うれしいことに夏休み期間中に開かれます。漁船ツアー、渡し船、フリーマーケット、アサリとイワシの無料配布、大漁旗オークションなど催し物が盛りだくさん！1部有料、予約制のものもありますので委員会までお問い合わせ下さい。

編集後記

ひさびさに上京してきたとたんに、つかまって編集をやらされてしまいました。どうぞよろしく。雨の観察舎、3匹のネコとそれを追う人の姿を観察しながら、原版のきりばりをだいたい終えたところです。(S)

じとーとした梅雨空のもとで、えさ用に保存してある給食の残りのパンがみるみるうちにかびてきました。もう気が気ではありません。早くからっと晴れてくれえ。それでも、こぬか雨の水玉がかかったくもの巣はとてもきれいです。(純)

今月から編集にバリバリの大学生、Sさん が加わりました。会報のマンネリ化もこれで救われる？若き新風にご期待下さい。(馨)

すずがも通信 No. 51

1988年8月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア500円

発行人 東 良一

事務局 [REDACTED]

編集 清水大悟、蓮尾純子、東 馨子

行徳野鳥観察舎 [REDACTED]